

市政の課題 若者が検討

北名古屋で未来会議



北名古屋市の課題について語り合う参加者＝北名古屋市役所で

将来の北名古屋市の課題「きたなごや未来会議」を考え、政策提言をするが十五日、市役所であり、

市内外の高校生や大学生、市の若手職員ら二十一人が参加した。

市政に関心を持ってもらおうと、千葉大大学院社会科学研究所の倉阪秀史教授(ふ)を進行役に招き、市が主催。参加者はグループに分かれ、二〇四〇年時点

の市の人口や財政の予測データを参考に、市政の課題を検討。それを解決するための政策提言を出し合い、模造紙にまとめていった。

市の能村義則総務部長らに向けた発表では、「空き家を幼稚園や介護施設、民

泊として活用する」「環境に配慮し、自転車やスクーターのシェアリングを始める」といった提言のほか、市内にある名古屋芸術大と協力し、防災ハザードマップを作るといったアイデアも出た。

愛知教育大一年の永用尚

也さん(あ)北名古屋市六ツ師は「自分にはない発想が得られ、市政に興味を持つ良い機会になった。長く北名古屋に住む人や社員の意見も聞いてほしい」と語った。

(高本容平)